

「魯山人写しの器」発売開始  
…魯山人が好んだ器を現代に蘇らせました…

当社「(株)ふた葉」は、このたび、没後50年を迎えて、(株)小倉陶器に委託し、美と食の極致を築き上げてみせた鬼才・北大路魯山人先生の作品をモチーフにした器を、ギフトパッケージにして発売することにいたしました。作品監修に「かたりべ魯文」さんを招き、品の良い、伝統的でありながら新鋭のある先生らしさあふれる商品になりましたので、お知らせ申し上げます。



北大路魯山人:1883—1959

1883年3月23日、京都上賀茂生まれ。幼い頃から書道、西洋看板に親しむ。東京に移り、日本美術展覧会に書を出品して一等賞を受賞。書道、篆刻、画家、陶芸、漆芸などで活躍。大正に入り、会員制「美食俱楽部」を発足、後に「星岡茶寮」を創業。「食器は料理の着物である」の信念で、自らの作品でもてなされた。篆刻家、画家、陶芸家、書道家、漆芸家、料理家、美食家など様々な顔を持っていた。76才没。

作品點評

■かたりべ魯文  
野寺 文雄氏

昭和21年生まれ。食器、陶器メーカーの勤務を経て、魯山人にに関する著書の制作および魯山人にに関するイベントや展示会等を企画。



うまいものを食べて、暮らしたい  
それは、幼い頃の魯山人の言葉です。

して、自ら美味しいものを求めて作り、器に盛り、食し人に供しました。  
磐山人主催の美食俱楽部里園茶寮では自ら美食を愉しむための塾を作り上げます。  
その自由奔放な磐山人の魅力をかたりべ磐分氏に監修していただき等の路に再現してみました。

て、暮らしたい  
山人の言葉です。



北大路魯山人

明治16年3月23日  
茂の村家に生まれ  
書道、篆刻、書画など  
分野で天才ぶりを  
食が高じ会員制  
「墨雨斎雅」を  
開は料理の着物である  
う信念のもと、そこ  
切の料理を創業、自

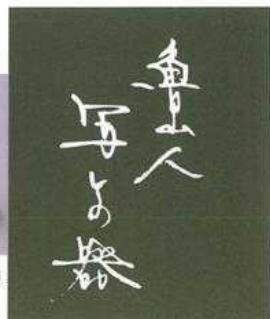


第四章 計算機

野寺 定輔氏



1



2



**北大路 魯山人**  
昭和2年3月29日、京都市東  
山の住民として生まれる。周辺  
は、草野、四季が豊かな醸造  
町で、父・木暮の陶器屋。美  
術大手の「大英社」の絵師を経て、  
高瀬川の瓦窯で瓦を焼く。直  
後に瓦窯を辞め、瓦窯は瓦の  
販賣のものと、そこでする一  
時的修理を副業。金遣も自ら  
制作した。



監修:ふた葉の陶工  
担当:久慈次

陶工:木暮文子  
一九四〇年好んで、その人  
の言ふことを喜んで、心から喜んで  
うなづかせる。それが、この人



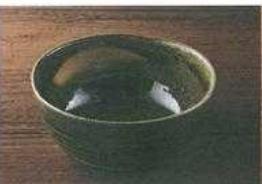
3



4



5



1 魯山人写しの器 崩・巻繪フリーカップ揃

L-1001 3,150円

2 魯山人写しの器 手造り三様丸小皿揃

L-1002 3,150円

3 魯山人写しの器 手造り巻模様丸小皿揃

L-1003 3,150円

4 魯山人写しの器 手造り三様角小皿揃

L-1004 3,675円

5 魯山人写しの器 二彩盛皿揃

L-1005 3,675円

6 魯山人写しの器 崩・赤絵三様フリーカップ揃

L-1006 3,675円

7 魯山人写しの器 総模部盛揃

L-1007 4,200円

8 魯山人写しの器 手造り五様小皿揃

L-1008 5,250円

製作 **瑞陶**

**Futaba**  
http://www.futa-ba.jp  
株式会社 ふた葉

本件お問い合わせは、(株)ふた葉  
市川まで(TEL:045-450-1260)